

「大学入試における英語民間試験の活用」について
－自由民主党文部科学部会「大学入試英語の適正実施WT」ヒアリング－

令和2年2月10日
日本私立大学協会

■私立大学における入学者選抜について

- 私立大学における入学者選抜は、①「建学の精神」を源泉とする多様かつ特色ある教育実践の第一歩に位置付けられるものである。よって、②その実施は各私立大学の「自主性・自律性」に委ねられるべきであると考えられる。
- 更に、少子化時代を迎えた私立大学の大学入学者選抜では、③これまでの「選抜型入試」の視点から「マッチング」の視点での実施がより重要になっている。

1. 大学入試における英語民間試験の活用の是非について（①当初案が延期・見送りになる前の段階での見解、②現在の考え、③今後の在り方についての考え）

- 私立大学の入学者選抜試験における英語民間試験の活用は、令和6年度大学入学共通テストに導入される場合を含め、あくまで各私立大学がそれぞれのアドミッションポリシーに基づき、判断すべきことと考える。
- なお、私立大学では「大学入試英語成績提供システム」の導入が延期された後であっても、令和3年度入学者選抜において、民間の英語資格・検定試験を活用し、英語4技能評価を行うとした大学は59.8%^{※1}に達する。
※1 出典：文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議(第1回)」、配布資料3、p36
- これは、多くの私立大学では英語4技能評価の重要性・意義を慮りつつも、個別入試において独自の4技能評価を実施することは困難であること等を踏まえ、現時点においては英語民間試験の活用が有用であることを示す一つの証左と考える。

- 2. 生徒・学生の4技能それぞれの到達度の把握・評価について、どのような点で成果があがっているか。逆にどのような点で課題が残っているか。**
- 3. 上記2の残っている課題を解決するための方策としてどのようなことが必要だと考えるか。**
- 4. 上記3の課題解決のために、高校、大学、教員、生徒・学生に対し、どのような支援が必要と考えるか。**

- 社会で求められる英語力を身につけるためには、入試における英語4技能評価の導入も重要な視点の一つではあるが、むしろ入学後の大学教育において、高校教育の英語4技能改革を踏まえ積み上げてきた力を一層伸長させていくことが大切と考えている。
- その一環として、例えば近年、短期留学を中心に「学生の外国大学等への送り出し」を実施する私立大学が増加^{※2}するなど、学んできた英語を「実践」する機会^{※3}の整備が進められている。
※2 本協会「大学教務に関する実態調査」によれば、外国大学への送り出しを行う加盟大学は、平成24年度の66.7%から平成28年度調査では72.6%と約6ポイント上昇している。
※3 正課外においても、日本人学生と留学生が混在する「学生寮」の整備や、英語しか使えないカフェや宿泊施設といった「場」の設置など、英語を「実践」する取組が行われている。
- しかしながら、まだこうした短期留学等に全ての学生が参加できる環境にない。より多くの学生にこうした機会を提供できるよう、国による財政支援を期待したい。
- また、少子化時代を迎え、学生も留学生や社会人などを加えて多様化しており、様々な学習履歴を持つ学生に対して、「高大接続」改革に加えて教育の一層の充実が重要と考える。

以 上